

登録コード	HM139200	開講年度	2026					
授業題目	分子生物学応用特論				担当教員	平塚 佐千枝 他		
英文授業名	Molecular Biology, application in tumor biology				副担当	富田 毅・加藤 真良・芦原 典宏		
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室			授業形態	講義	備考			
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初							
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	・医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能を習得し、使うことができる。		
(2)詳細/Detailed information	分子生物学の知見をもとに、巨視的な現象論を理解することに取り組む。ここではがんとその転移の分子メカニズムを理解することを目指として、様々な生体分子からの視点でがん細胞およびそれらを取り巻く正常細胞との相互作用について考察する。							
(3)授業の概要/Overview of course	がん細胞およびがん細胞によって影響をうけている正常細胞のDNA、RNA、タンパク質等の生体分子の構造・機能について分子生物学的な解説を行う。							
(4)授業計画/Course plan	(第1回－4回) がん細胞およびがん組織におけるDNA・RNAの構造と機能、臨床応用 (第5－7回) がん細胞およびがん組織における細胞外マトリックスの構造と機能 (第8－11回) がん細胞およびがん組織におけるサイトカイン・ケモカインとレセプターの構造と機能 (第12－13回) がん細胞およびがん組織における細胞内情報伝達分子の構造と機能 (第14－15回) がん細胞およびがん組織における転写因子の構造と機能							
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	(a)成績評価の方法 講義中の質疑応答もとに評価する。期末試験の得点の60%以上を合格とする。 (b)成績評価の基準 世界の最先端の情報を随時把握するように努め、年度毎に到達レベルを質疑応答および発表形式により評価する。上記の概念、知識、研究への還元への応用性を鑑みて、卓越している(秀)、「かなり上にある(優)」、「やや上にある(良)」、「水準にある(可)」で成績を評価する。							
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前事後学習の内容 論文を読むことで、最新の知識を習得するように、教官と学生は両方向性の質疑応答を行い、授業中に解決しなかった項目について自主学習を行い、その後教官と再度議論を行い、習得する。							
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡							
(8)授業の形式/Course format	論文を中心とした質疑応答方式							